

薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例
(2015年1月)

【相互作用防止】

Q: プロプレスTM、アムロジピンTM、パリエットTM、カロナールTM、つくしTMAM散、レンドルミンTM、ラシックスTM、バイアスピリンTM、フォイパンTM、エクセラゼTM、ニコランジルを服用中。眼科からクラビットTM錠が処方されたが、相互作用は？(県民)

A: つくしTMAM散との併用によりクラビットTM錠の吸収が低下し効果が減弱するので、クラビットTM錠の服用1～2時間後につくしTMAM散を服用する。
カロナールTMとの併用により過度の体温低下を起こすことがあるので、注意する。

Q: ユニシアTM配合錠、ピタバスタチン、エビスタTM、エディロールTM、アスパラTMCa錠を服用中。セフゾンTM、ロキソニンTMとの相互作用は？(歯科医師)

A: ユニシアTM配合錠とロキソニンTMで、ユニシアTM配合錠の降圧作用減弱、腎機能障害者では腎機能悪化のおそれがあり、併用注意。

Q: アルジオキサ、オルメテックTM、レボチロキシシン、デパスTM、アリナミンTMF、ウルソTM、フェキソフェナジン、メコバラミンTM、フェブリクTM、ピタバスタチン、アムロジンTM、ラベプラゾールNa、ノイトロジンTMを服用中。セフゾンTM、ロキソニンTMとの相互作用は？(歯科医師)

A: アルジオキサとセフゾンTMの同時服用はセフゾンTMの吸収が低下し効果が減弱するので、2時間以上間隔をあける。
オルメテックTMとロキソニンTMは、オルメテックTMの降圧作用減弱、腎機能障害者では腎機能悪化のおそれがあり、併用注意。
ラベプラゾールNaを消化性潰瘍のために服用中であれば、ロキソニンTMは禁忌。

Q: カソデックスTM、アダラートTML、プロプレスTM、重質酸化マグネシウム、タガメットTM、ウリトスTM、マーズレンTMS、クリアナールTM、テオロングTMを服用中。カロナールTM、ルリッドTMまたはフロモックスTMとの相互作用は？(歯科医師)

A: テオロングTMとルリッドTMで、テオロングTMの血中濃度の上昇により中毒症状(吐気、頭痛等)が現れるおそれがあり、併用注意。
タガメットTMを消化性潰瘍のために服用中であれば、カロナールTMは禁忌。
添付文書にて、消化性潰瘍への禁忌がなく、歯痛の適応があるのは、SGTM配合顆粒、キョーリンAP2TM配合顆粒、立効散。

Q：ラベプラゾールNa、アーチストTM、ラシックスTM、アムロジピン、クレストールTM、ロサルタンKを服用中。セフゾンTM、ロキソニンTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：ラベプラゾールNaを消化性潰瘍のために服用中であれば、ロキソニンTMは禁忌。
ラシックスTMとロキソニンTMで、ラシックスTMの利尿作用減弱のため、併用注意。
ロサルタンKとロキソニンTMで、ロサルタンKの降圧作用減弱、腎機能障害者では腎機能の悪化のおそれがあり、併用注意。

Q：メチコパールTM、メインテートTM、フルイトランTM、ミカルディスTM、酸化マグネシウムを服用中。ロキソニンTMまたはカロナールTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：ロキソニンTMとメインテートTM、フルイトランTM、ミカルディスTMで、降圧・利尿作用の減弱、腎機能障害者では腎機能悪化のおそれがあり、併用注意。
カロナールTMとフルイトランTMで、フルイトランTMの利尿作用減弱のため、併用注意。

Q：アレビアチンTM、酸化マグネシウムを服用中。ルリッドTM、カロナールTMまたはロキソニンTMまたはボルタレンTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：アレビアチンTMの長期連用者は、アセトアミノフェンの代謝物のN-アセチルp-ベンゾキノイミンによる肝障害を生じやすくなるため、カロナールTMと併用注意。

Q：アクトスTM、リピトールTM、アマリールTM、メトグルコTM、テネリアTMを服用中。フロモックスTMとロキソニンTMとの相互作用は？（歯科医師）

A：アマリールTMとロキソニンTMで、血糖降下作用増強のおそれがあり、併用注意。血糖値その他患者の状態を十分観察し、必要に応じていずれかの投与量を調節する。

Q：フェジンTMを、ネオラミンTM・スリービーと混合して良いか？（薬局）

A：フェジンTMのpHは9.0~10.0で、pH変化により変化を起こしやすく、pH4.71以下では混濁、結晶析出を起こす。ネオラミンTM・スリービーのpHは3.0~5.0で、混合により沈殿を生じるため、混合しない。

【適正使用】

Q：タミフルTMとカロナールTMを服用。鼻水・のどの痛み等のため、以前もらっていたPLTM配合顆粒を一緒に服用して良いか？（県民）

A：以前もらった薬は服用しない。自己判断で薬を服用して起きた副作用には副作用被害救済制度は適用されない。PLTM配合顆粒は、カロナールTMと同じ成分を含有し、過量服用で肝障害が起こるおそれがあり、併用しない。

【副作用防止】

Q：アクトネルTMを粉砕して良いか？（薬局）

A：咽喉頭や食道への刺激作用があるため粉砕不可。